

卒業式に於ける中川學校長の告辭

著者	中川, 元
雑誌名	龍南會雜誌
巻	3 9
ページ	1 - 1
発行年	1895-10-16
その他の言語のタイトル	卒業式に於ける中川学校長の告辞
URL	http://hdl.handle.net/2298/4624

龍南會雜誌第參拾九號

卒業式に於ける中川學校長の告辭

卒業生諸子よ、今や我が邦の宇内に新紀元を始むる大御世に方り、茲に本日をつし、貴顯紳士の列席をさへ辱くし、以て本校第四回卒業證書授與式を行へり、本校の光榮、亦是れ諸子の榮譽にして、我々の相共に喜ぶ所なり。

顧ふに、諸子の今日ある所以は、固より本校教師諸君の開誘宜しきを得たるに由るとはいへども、抑又諸子各自ら寒暑糠腹の勞を積みたるに非ずんば、いづれでなく此に到ることを得べき。此より更に進みて帝國大學に入り、各其擇びし専門學科を修めんとする、其の辛酸の程、誠に尋常一様の談にあらずと雖ども、人生の一樂も亦自ら其中に在らん。夫れ諸生の學業に勉むる、恰も萬重の雲を披きて高峰の月を覩るが如し、一線の明生する處、萬有の理皆透る、其の快果して何如ぞや。まゑて此の大新勝國に生れあへる人々、勉めて徳を建て、智を啓き、以て海外の環視に當り、一國の名聞を壓さるのみならず、益々文運を張り、開明を進めざるべからず、是れ即ち諸子の任すべき所にあらずや。諸子よ、將來身を處し業を修むるに際しては、一事たりども假初にせず、愈々忠君愛國の志氣を振ひ、以て聖明罔極の鴻恩に酬ひ奉らんとを期せよ。